発行日　平成26年12月25日

社会福祉法人 岡山市手をつなぐ育成会

～地域で豊かなくらしを～

発行　社会福祉法人　岡山市手をつなぐ育成会　岡山市北区昭和町6-26　TEL086-214-5103

資源選別作業（西部リサイクルプラザにて）

「聞く力」と「伝える力」を工夫する

理事長　林　英生

総合支援法では、障がい者本人の「意志の決定」を尊重し、「障がい福祉サービス等の利用計画」を作成することが求められています。このためには障がい者の意見を聴き出し、自己実現への道筋を書き表わさなければなりません。支援者の職能として「聞く力」と「伝える力」が問われることになります。

「自閉症の僕が飛び跳ねる理由―会話のできない中学生がつづる内なる心」（東田直樹　エスコアール、15ページ参照）は世界二十カ国語以上に翻訳され、「飛び跳ねる思考」として、世界中で注目を集めています。自分の意志を表現出来なかった自閉症者が文字盤ポインティング（キーボード）を「道具」とした筆談で意志を表示出来るようになりました。彼は音声ではなく、キーボードを介して伝える力を発揮し、意見を表現し、周囲の人々はかれの意見が聞こえるようになりました。これは素晴らしい発見です。私たちは言葉で意志を表現しますが、その言葉を音声ではなく、キーボードを利用できたのです。手話や読唇術とも異なる方法です。

この発見に驚くとともに、強く反省させられることがあります。私たちは障がい者の意志を聞くために、一人ひとりの個人に則した特別な「技」で「聞きだす力」を工夫しているか、ということです。親として、また支援者として、支援・対応が「慣れ合い」「おしきせ」になりがちです。知的発達障がい者は独特の感性でものごとを捉え、何らかの方法で自己の意志を表現しようとしていることに常に思いを致さなくてはなりません。障がい者が発信している信号を「白紙」で受け止める「聞く力」を磨くことが大切だと思います。私たち「手をつなぐ育成会仲よし」は「聞く力」と「伝える力」を鍛え、工夫をしながら、利用者一人ひとりに寄り添って、利用者が明るく、楽しく暮らせるように、地域での支援の輪を広げてゆきます。

西部仲よし

平成四年から始まった新保資源選別所は二十二年間の幕を閉じ、平成二十六年十月一日から野殿に新しく建設された西部リサイクルプラザに移転して西部仲よしとして新たにスタートしました。今までの新保資源選別所は露天の仮設で長年の間、暑さや寒さに耐えながら自然の中で仕事をしてきました。西部では全ての作業場に冷暖房が完備されており、天気の善し悪しに影響されることなく選別作業ができるようになっています。作業内容は、ビン・ペットボトルの選別は新保と変わらず行い、これらに新しく発泡トレイの選別も加わりました。発泡トレイの選別は初めてなのでまだ戸惑うことも多いですが、徐々に慣れていけるように頑張っています。

新保から大きく変わったのは全てが機械化していることです。新保では全ての作業は自分たちの力だけで行っていましたが、ビン・ペットボトルが自動で流れてくるので力を使って作業することがなくなり、体力的には新保の時よりも楽になっています。

しかし、今までは市の職員の皆様が私たちのペースに合わせて下さり作業をしていましたが、西部では川崎技研、共同組合など様々な人達と一緒に仕事をしているということもあり、その人たちとペースを合わせて作業を進めていかなければならないという難しさもあります。

休憩所は三階にあり、エレベーターがないので作業場との往復に労力はかかりますが綺麗で広くなり、畳のスペース、長机と椅子のスペースもできました。作業で疲れた時はこの畳の上で寝転がって休むこともできます。

これからは、利用者さん・支援者が力を合わせて「自分たちの仕事場」をしっかり作り上げていくと共に、機械に合わせて自分たちがどう作業するか、自分たち以外に働いている人たちとどう協力していくかという課題も考えながら頑張っていきたいです。

（佐伯）